

SALON

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール情報誌
Vol.161 2026年 7月号

THE PHOENIX HALL

CONTENTS

01 Prime Interview

03 Phoenix Presents

07 Essay

福田進一

Chamber Music Kaleidos ーピアノ五重奏

イアン・ボストリッジ ～冬の旅～

ヴィクトリア・ムローヴァ ヴァイオリンリサイタル

山本昌史コントラバス・ソロ

世界を一つにしたJAZZ 小曽根真



ギターで大阪を盛り上げる、そうしたイベントのフラッグシップであり続ける

Prime Interview

福田進一

2010年に第1回が開催された大阪ギターサマーは、コロナ禍による2度の中断をはさみ、2026年で第15回を迎える。いまや夏の風物詩として定着し、国内外のギタリストを紹介したり、すぐれたギター作品にスポットを当てたりするだけでなく、次世代のギタリストたちの育成や発掘という面でも重要な役割を果たしている。とりわけ近年は、かつてここでマスタークラスを受けた関西出身の若手ギタリストたちが、多方面で際立った活躍をみせるようになり、もはやギター文化を支えるうえで不可欠なイベントになったとさえ言えるだろう。そうした大阪ギターサマーにおいて、演奏とプロデュースの両面で重責を担う福田進一に、イベントのこれまでとこれからについてうかがった。

(小川智史／音楽書編集者)

©Takanori Ishii



Osaka Guitar Summer 2026 公開マスタークラス聴講&修了コンサート

2026年8月29日(土) 自由席
①公開マスタークラス 13:00開始
②修了コンサート 16:00開演
1日通し券 ¥1,500 友の会会員 ¥1,350
*1枚のチケットで①②両方ご覧いただけます。
出演
①福田進一、荘村清志、坂上颯亮、小林玄司
②アンサンブルワークショップ受講生、
坂上颯亮、小林玄司、岩崎慎一、井谷光明
特別ゲスト：上野芽実

福田進一&荘村清志 ジョイントリサイタル

2026年8月30日(日)15:00開演 指定席
¥5,000 友の会会員 ¥4,500
学生(25歳以下) ¥1,500
(ホールチケットセンターのみのお取り扱い)
出演 福田進一、荘村清志(ギター)
アンサンブルゲスト：猪居亜美(ギター)、
徳永真一郎(ギター)

■お問い合わせ
ザ・フェニックスホールチケットセンター
06-6363-7999(平日10:00〜17:00、土日祝休)

もともと大阪ギターサマーはどのような意図で始められたのでしょうか？

もう50年ほど前の話になりますが、私がパリ留学する前後、1970年代頃のギター界は“西高東低”と言われていて、才能のある若いギタリストが関西に集まっていて、とても活気がありました。もちろん当時から東京で活躍されていた方もたくさんいらっしゃるのですが、一概には言えませんが、私たちの世代にはそうした感覚があります。

同じパリ留学組だと、コンセルヴァトワールを首席で卒業した稲垣稔さんがいて、パリ国際ギターコンクールで第2位を獲った10弦ギターの岩永善信さんがいる。バーゼル(スイス)留学組ですがシエナ・キジアーナ音楽院(イタリア)で私と同じオスカー・ギリアに師事した松永一文さんも大阪生まれ。少し上の世代だとリュートに転向した今村泰典さんや佐野健二さんも関西出身です。北海道出身の藤井真吾、敬吾兄弟も大学から関西に来ますし、少し下の世代の北口功さんや岩崎慎一さんも大阪出身です。

ただ、優秀な若手はヨーロッパに留学してしまうし、ギター界の話題はコンサートの多い東京に移ってしまう。昔のような盛り上がりを取り戻そうというのが、大阪ギターサマーを始めたときからのコンセプトです。いつもマスタークラスを開催しているのも、その土壌作りのためですね。



大阪ギターサマー2013「公開マスタークラス」より 受講生：猪居亜美

同じく毎夏開催している東京のHakujuギターフェスタとは、マスタークラスがあることが違いますね。

マスタークラスは受講生だけでなく、聴講生がいることも重要なので、大阪の土地柄でどうすれば興味を持ってもらえるのか、最初の頃は試行錯誤しました。今いい雰囲気です。マスタークラスを続けられているのは、15回やってきたなかでうれしいことのひとつです。

また、かつて大阪ギターサマーでマスタークラスを受講した子とステージで共演する機会も最近増えてきました。硬派なクラシック作品に取り組み続けている徳永真一郎さんやリュートに転向して活躍している会所幹也さん、ロックをレパートリーに取り入れて新しい聴き手を獲得している猪居亜美さん、ジャズの勉強もして作曲方面でも活躍している関喜弦介さんなど。

実際に今年のお阪ギターサマーでは徳永さん、猪居さんと共演しますが、ギターで大阪を盛り上げる、そうしたイベントのフラッグシップであり続けるという流れを、次の世代の演奏家に受け渡すことができたのは、大きな成果として実感しています。

そのような生徒さんたちの成長をご覧になっていかがですか？

実のところ、彼らに対して私が“教師”だったという感覚はありません。私の目の前に現れる子たちは基本的に、すでにどこかで上手になっていて、あまり“教える”という気持ちで接していません。刺激を与えたり、道を示してあげたりして、少しでも高いところに引き上げられるかどうか、私にできる精一杯のことですね。アンドレ・ジッドが小説『狭き門』で描いた「力を尽くして狭き門より入れ」のような。

だから私は、教えた子たちのスタイルやキャラクターが私と似て「いない」ことが大事だと思っています。上手に真似できるようになったところで、自分自身の個性を見つけれなければ、長い目でみて伸びていきません。

現代は特に、YouTubeなどの登場で演奏が没個性化しやすくなっています。才能を探すプロデューサーの側も、玉石混交の中から「玉」を見つけ出すのは難しくなっていると思います。これはいろいろな国のギタリストと話している世界現象だと感じていますし、危機感も抱えています。

大阪ギターサマーではこれまで、フェルナンデスやカネンガイザーのように長く第一線で活躍されている方から、ディラやジュヴ、エスコバルのように、なかなか来日が実現しなかった新世代のギタリストまで、様々な海外ギタリストと共演されてきましたね。

海外のフェスティバルで共演したギタリストたちに声を掛けて、定期的に出演してもらっていますが、世界にはいろいろなキャラクターをもったギタリストがいるということを大阪の人たちに紹介できたのは、意義のあることだったと自負しています。ギタリストたちにも、ザ・フェニックスホールというクラシックギターに適した音響のユニークな空間で演奏できることを喜んでもらえています。

大阪ギターサマー出演者

共演ギタリスト				マスタークラス参加者	
1	2010年	ウィリアム・カネンガイザー(アメリカ)	猪居亜美、藤元高輝、永田参男、山本依生、岩松知宏、縦石佳久、壇 遼、舛田隆志		
2	2011年	鈴木大介(日本)	上野芽実、会所幹也、関喜弦介、永田参男、佐久間優		
3	2012年	ロマン・ヴィアゾフスキー(ウクライナ)	井谷光明、関喜弦介、徳永真一郎、山口莉奈		
4	2013年	グレアム・アンソニー・ディヴァイン(イギリス)	猪居亜美、大西洋二朗、西田昌弘、山口莉奈		
5	2014年	マルシン・ディラ(ポーランド)	猪居亜美、大沢美月、関喜弦介、会所幹也		
6	2015年	フランシスコ・ベルニエール(スペイン)	大沢美月、山口莉奈、西田昌弘、大塚勇馬		
7	2016年	ジェレミー・ジュヴ(フランス)	大塚勇馬、深澤太一、松島淳、石丸陸		
8	2017年	ホセ・アントニオ・エスコバル(チリ)	大塚勇馬、山口莉奈、松島淳、深澤太一		
9	2018年	クビンスキー・ギターデュオ(ポーランド)	綾田日向子、宇田奈津美、会所幹也、深澤太一、山口莉奈		
10	2019年	エドゥアルド・フェルナンデス(ウルグアイ)	関喜弦介、田中勲、森田莉子、深澤太一、山口莉奈		
中止	2020年	大萩康司(日本)			
中止	2021年	大萩康司(日本)			
11	2022年	大萩康司(日本)	福山日陽、大島祥、大谷恵理架		
12	2023年	荘村清志、押尾コータロー(日本)	福山日陽、山田真菜、前田遥香		
13	2024年	エドゥアルド・フェルナンデス(ウルグアイ)	東 光、前田遥香		
14	2025年	ベルタ・ロハス(パラグアイ)	坂上颯亮、綾田日向子		



大阪ギターサマー2023より ©松浦隆

今後共演したい方や、実現したい企画などがありますか？

今年の台湾国際ギターフェスティバルに出演してもらったイタリアのアンドレア・デ・ヴィティスを日本にも招きたいですね。あとは何度か来日はしていますが、フランスのガブリエル・ピアノコも大阪ギターサマーで共演できたらと思っています。彼らがコンクールを受けていた頃から審査員として接していますが、日本にも紹介したい優秀な若手です。

また、現実的にはなかなか難しいですが、やはりギター以外の楽器が入った室内楽作品を演奏できるようになるといいですね。音楽業界に活気があった1990年代頃は、もっと高い頻度で室内楽作品に取り組みましたが、今はギターのお客さんに合わせたプログラムにしないとなかなか企画できない。こうした課題は今後ホールの方々とも考えていきたいと思っています。

では最後に、15回目となる今回の大阪ギターサマーの聴きどころをお教えください。

今年はHakujuギターフェスタも20周年ということで、そちらを共同プロデュースしている荘村清志さんをゲストにお迎えします。もちろんそれぞれソロも弾きますが、Hakuju Hallとザ・フェニックスホールが共同委嘱した新作ギターデュオはぜひお聴きいただきたいですね。新世代のコンポーザーギタリストとして注目されている広島出身の大坪純平さんにも願っています。また、先ほどお話しした徳永真一郎さんと猪居亜美さんを加えたカルテットで、2019年の大阪ギターサマーで委嘱・初演された林そよかさんの《4つの海の物語》を久々に再演するので、そちらもぜひご期待ください。

アンサンブル・ア・ラ・カルト71

2026
12/12± Chamber Music Kaleidos
ーピアノ五重奏

友の会先行予約	2026 7/25± 10:00～
一般発売	2026 7/31金 10:00～

*各発売日初日は電話予約のみ。土曜日は特別営業。
*インターネット予約、ご来店によるお申込みは8月3日(月)10:00から!

15:00開演 指定席	一般前売 ¥5,000 (友の会会員 ¥4,500) 税込 学生 (25歳以下) ¥1,500
-------------	---

フォーレ:ピアノ五重奏曲全曲演奏会のメンバーが再集結!名曲ドヴォルジャークと神童コルンゴルトの難曲に挑む!



■出演 郷古廉(ヴァイオリン)、小川響子(ヴァイオリン)、中恵菜(ヴィオラ)、水野優也(チェロ)、水谷友彦(ピアノ)

■曲目 コルンゴルト:ピアノ五重奏曲 ホ長調 op.15 ドヴォルジャーク:ピアノ五重奏曲 第2番 イ長調 op.81

オススメ

近年、人気の高まりをみせるコルンゴルトと 不動の人気を誇るドヴォルジャークの贅沢なカップリング

ー 深い喪失感にとらわれたとき、私たちはいかにそれを克服するかー

これはコルンゴルトのオペラ《死の都》で扱われているテーマです。話の筋としては、妻を失った主人公が悲しみに覆われた灰色の都ブルージュでその喪失感を克服し、生きていく決心をするまでが描かれます。死別の悲運を乗り越えて退廃的な世界と決別する男の姿を、多くの人が自分自身と重ね合わせたのでしょう。第一次世界大戦後に荒廃したヨーロッパで熱狂を持って受け入れられました。このオペラの大成功によってコルンゴルトは20世紀を代表する作曲家の地位を獲得することになります。さて、その《死の都》が初演された1920年から2年ほどの間に、今回演奏するピアノ五重奏曲は作曲されています。第2楽章は「月の明るさが私を苦しめる」という内容の自作の歌曲が引用されており、愛する人との別れを嘆く悲

しく切ない詩が歌われます。美しい旋律美と複雑且つ繊細に5つの楽器が溶け合う音楽はまさに神童コルンゴルトの真骨頂と言えるでしょう。難易度の高さゆえに取り上げられる機会は少ないものの、絶頂期に書かれた作品だけあって素晴らしい仕上がりとなっています。一方で、ドヴォルジャークのピアノ五重奏曲第2番は彼の作品の中でも屈指の高い人気を誇る作品です。コルンゴルトとは対照的に充足感に満ちた色彩溢れる世界が広がっており、風通しがよく清々しい音楽は喪失感を克服した後に目の前に広がる景色を眺めているようにも感じられます。今回はこの対照的な2つのピアノ五重奏曲を並べて聴くまたとない機会となります。神童コルンゴルトの絶頂期の傑作と巨匠ドヴォルジャークの円熟味が味わえる贅沢な時間になることでしょう。

(水谷友彦 ピアニスト)

2027
1/16± 注目アーティストシリーズ85
イアン・ボストリッジ ～冬の旅～

友の会先行予約	2026 7/25± 10:00～
一般発売	2026 7/31金 10:00～

*各発売日初日は電話予約のみ。土曜日は特別営業。
*インターネット予約、ご来店によるお申込みは8月3日(月)10:00から!

15:00開演 指定席	一般 ¥9,000 (友の会会員 ¥8,100) 学生 (25歳以下) ¥3,000
-------------	--



共に旅を。そしてその核心へー

■出演 イアン・ボストリッジ(テノール)、ジュリアス・ドレイク(ピアノ)

■曲目 シューベルト:歌曲集「冬の旅」op.89, D911 全曲

(休憩なし/約80分)

現代最高峰のテノール歌手、イアン・ボストリッジとその盟友であるピアノのジュリアス・ドレイクが、18年振りに、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールに登場します。演奏されるのはシューベルトの最高傑作であり、ボストリッジの代名詞とも言える「冬の旅」(全曲)。失恋の痛手から、厳しい雪景色の中を彷徨う若者の孤独と絶望。時に演劇的とも評されるボストリッジの歌唱は、歌曲としての美しさにとどまらず、ドラマとしての側面を際立たせます。そして、独特の陰影を持つリリック・テノールの歌声と、緻密でドラマティックなピアノが、物語の輪郭をより立体的に描き出すのです。親密な空間と極上の音響を備えたザ・フェニックスホールは、この深遠な音楽世界の真髄を味わうのにこれ以上ない理想的なステージ。唯一無二のデュオが紡ぎ出す、美しくも残酷な冬の旅路。…共に旅を。

チケットのご予約、窓口でのご購入

ザ・フェニックスホール チケットセンター
(あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8階)

TEL 06-6363-7999

営業時間:10:00~17:00 休業日:土・日・祝日

*土曜日が発売日の場合は、電話受付のみの特別営業となります。

ご予約後の手続き



ご来店でお引き取り

10日以内にご来店ください。
窓口では、キャッシュレス決済にご協力をお願いいたします。



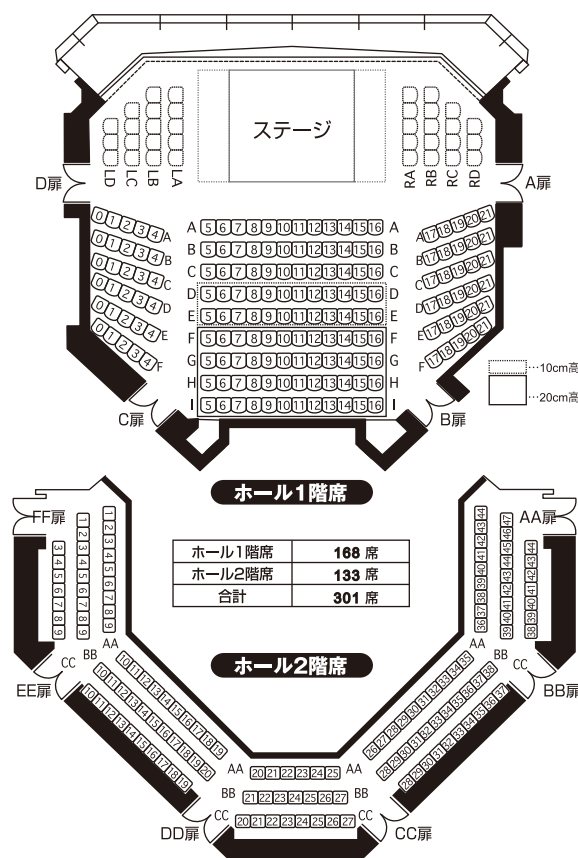
郵便局よりお振り込み

ご予約後、10日以内にお振込みください。

ご入金確認後、2週間程度でご自宅へお届け。

簡易書留で発送 送料470円と振込手数料はお客様ご負担となります。

口座番号 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール



■共同主催 パシフィック・コンサート・マネジメント、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

2026
11/21± ヴィクトリア・ムローヴァ
ヴァイオリンリサイタル

15:00開演 指定席	一般 ¥12,000 (友の会会員 ¥11,000) *学生券の設定はありません。
----------------	--

関西での公演はザ・フェニックスホールだけ！
ヴァイオリン界の女王ムローヴァが弾くベートーヴェン「春」

- 出演 ヴィクトリア・ムローヴァ(ヴァイオリン)、アラスデア・ビートソン(ピアノ)
- 曲目 ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ 第1番 ニ長調 op. 12-1
第5番 へ長調 op. 24 「春」
第10番 ト長調 op. 96

友の会先行予約	2026 7/25± 10:00～
一般発売	2026 7/31金 10:00～

*各発売日初日は電話予約のみ。土曜日は特別営業。
*インターネット予約、ご来店によるお申込みは8月3日(月)10:00から！



© Benjamin Ealovega

友の会先行予約	2026 7/25± 10:00～
一般発売	2026 7/31金 10:00～

*各発売日初日は電話予約のみ。土曜日は特別営業。



2026
11/18水 フェニックス・エヴォリューション・シリーズ115
山本昌史コントラバス・ソロ
The Unplugged Presence
～無伴奏コントラバスの存在感～

19:00開演 自由席	一般 ¥4,000 (友の会会員 ¥3,600) 学生(25歳以下) ¥2,000
----------------	--

佐治敬三賞、クラニツヒシュタイン特別賞受賞、
国内外が絶賛する圧倒的表現力、奇才が放つ究極のソロ

- 出演 山本昌史(コントラバス)
- 曲目 坂田直樹：蛇神の諸相(山本昌史委嘱作品・2025)※世界初演
高木日向子：ロスト イン__VI(山本昌史委嘱作品・2022)※関西初演
エクトル・パラ：5つの花(2021) ※日本初演 ほか

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

公演により割引枚数などに制限があります。ご購入時にお問合わせください。

協賛公演

“KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”
高木和弘プロデュース salon de sasanoha
"弦楽八重奏曲の醍醐味"

2026年8月7日(金)19:00開演 指定席 **発売中**
¥6,500 (友の会会員¥5,800) ※友の会割引は前売のみ。限定数。
高木和弘、ヤンネ館野、長瀬大観、田中佑子(ヴァイオリン)、細川泉、
中田美穂(ヴィオラ)、中島紗理、吉田円香(チェロ)



関西二期会 第23回サロンオペラ **発売中**
歌劇『オルフェオ』

【第1夜】 2026年8月20日(木)
19:00開演 指定席

【第2夜】 2026年8月21日(金)
19:00開演 指定席
¥4,000 (友の会会員¥3,600)

宮崎優也(指揮)、
東平閑(スケーピング)、
須山由梨(ピアノ)、
片桐仁美(公演監督)

キャスト：
山本伸子、黒田まさき、
赤堀佳奈子、萩原寛明
ほか



詳細は公演チラシか
ホールホームページで
ご確認ください。

協賛公演

THE VIOLIN SONATA SERIES
～5人のマエストロ×多川響子～ 第8回

2026年9月27日(日)14:00開演 自由席 **発売中**
一般前売¥4,000 (友の会会員¥3,600)
一般当日¥4,500 (友の会会員¥4,000)
25歳以下前売¥2,000 学生当日¥2,500
佐久間聡一(ヴァイオリン)、多川響子(ピアノ)



©井村重人

浅野祥
一響一三味線×JAZZ×CLASSIC

2026年10月3日(土)14:00開演 指定席 **発売中**
¥6,000 (友の会会員未定)
浅野祥(三味線・歌)、曾根麻央(ピアノ・トランペット)、
ビルマン聡平(ヴァイオリン)、西谷牧人(チェロ)



佐藤晴真チェロリサイタル

2026年10月10日(土)14:00開演 指定席 **発売中**
¥5,500 (友の会会員¥5,000)
佐藤晴真(チェロ)、大伏啓太(ピアノ)



©Seichi Saito

小曽根真プレミアム・ソロ
～The New York Spirit～

2026年10月8日(木)
19:00開演 指定席
¥10,000 (友の会会員¥9,500)

発売日

友の会先行予約 7/25(土)10:00～
一般発売 8/3(月)10:00～

小曽根真(ピアノ)



©西村満

“KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”
漆原朝子
ベートーヴェン&シューベルト：
ヴァイオリンとピアノのための作品全曲演奏

- ①ベートーヴェン：
2026年12月1日(火)19:00開演
- ②ベートーヴェン：
2027年3月26日(金)19:00開演
- ③ベートーヴェン：
2027年6月4日(金)19:00開演
- ④シューベルト：
2027年7月3日(土)14:00開演
- ⑤シューベルト：
2027年7月3日(土)18:00開演 指定席



©Naoya Yamaguchi, Studio Diva

ベートーヴェン公演 各1回券¥6,500 (友の会会員¥5,800)
シューベルト公演 各1回券¥6,000 (友の会会員¥5,400)
全5公演券 ¥25,000 (友の会会員¥23,500) ※友の会割引は前売のみ。限定数。
漆原朝子(ヴァイオリン)、津田裕也(ピアノ)

7/22(水)発売

王の舞曲IX～ピエール・F・ドレ氏を迎えて～

2026年10月29日(木)19:00開演 自由席
前売¥4,000 (友の会会員¥3,600) **7/29(水)発売**
当日¥4,500 (友の会会員¥4,050)

バロックダンス：コートダンス・アンサンブル(樋口裕子、今野典子、宮口加奈) ゲスト/ピエール・F・ドレ
古楽器演奏：アンサンブル・トリノ(バロックヴァイオリン：横山知彦、リコーダー：橋詰智章、ヴィオラ・ダガンバ：中西歩、チェンバロ：吉竹百合子)ゲスト/パーカッション：小川悟史



KLAVIER QUARTETT～絢爛のロマン～

2026年11月1日(日)14:00開演 自由席
前売¥5,000 (友の会会員¥4,500) **7/31(金)発売**
当日¥5,500 (友の会会員¥5,000)

高木和弘(ヴァイオリン)、田中佑子(ヴィオラ)、
クリストフ・ヘンケル(チェロ)、児嶋一江(ピアノ)



“KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”
ミハル・カニユカ ピアノトリオ・プロジェクト

2026年11月2日(月)18:00開演 指定席 **発売中**
¥7,000 (友の会会員¥6,000)
※友の会割引は前売のみ。限定数。

伊藤恵(ピアノ)、漆原朝子(ヴァイオリン)、ミハル・カニユカ(チェロ)



©武藤章

©Naoya Yamaguchi, Studio Diva

©Naoya Yamaguchi, Studio Diva

Quartet Expilloc 2026 tour

2026年11月7日(土)14:00開演 指定席 **発売中**
一般前売¥4,000 (友の会会員¥3,600)
一般当日¥4,500 (友の会会員¥4,050)
学生前売¥1,500 学生当日¥2,000
市寛也、高木慶太、辻本玲、森山涼介(チェロ)



トリオ・スペリオール vol.6
～トラディションからレボリューションへ
時代を超える三重奏 一情熱と革新の100年～

2026年11月15日(日)14:00開演 指定席
¥5,000 (友の会会員¥4,500) **8/6(木)発売**
※友の会割引は前売のみ。

泉原隆志(ヴァイオリン)、上森祥平(チェロ)、
佐藤卓史(ピアノ)



長富彩 オール・ショパン・リサイタル
～最後の風景～

2026年11月27日(金)19:00開演 指定席 **発売中**
プレミアムシート：¥6,500 (友の会会員¥6,000)
※前方席、ポストカード付
A席：¥5,000 (友の会会員¥4,500)

長富彩(ピアノ)



©Victor Entertainment

世界を一つにしたJAZZ

昨年8月、ニューヨークにある老舗ジャズ・クラブ「バードランド」で、ジャズピアニストのレジェンド、オスカー・ピーターソンの生誕100周年祝ライブを5日間やった。その5日間の1日がオスカーの誕生日なのだが、それは奇しくも終戦記念日である8月15日なのだ。このライブで今回一緒にしたジャズ・レジェンドの二人、白人のドラマーであるジェフ・ハミルトン、黒人のベーシストであるジョン・クレイトン。そこに黄色の僕が入ったこのボーダーレス・トリオでオスカーの作曲した「自由への讃歌」を演奏した。200人近いオーディエンスの皆さんが息を吞んで聴く様子をステージで感じて胸がいっぱいになった。口には出さなかったが、ジェフもジョンも同じ気持ちだっただろうと思う。オスカー・ピーターソンというピアニストの奏でる「ジャズ」という枠を遥かに超えて世界中の人を魅了した。それは無条件に聞く人の気持ちを高揚させて心を幸せにさせてくれる。そのポピュラリティーの余りの高さに「これはジャズのスタイルで演奏するポピュラー音楽で本物のジャズではない」という様な、所謂「ジャズ通」と呼ばれるファン層からの厳しい意見もあったほど、ピーターソンの音楽は世界中の人を幸せにした。僕がパークリー音楽大学に留学して知り合った学生のピアニストに「僕はピーターソンを聴いてピアノを始めんだ」と伝えると「僕もそうだよ!」と言ったピアニストの多い事に驚きと喜び、それと何故か誇りを感じたのを今でも覚えている。

実はこのザ・フェニックスホールで阪神淡路大震災の直後に開催されたチャリティーコンサートで父親の実、弟の啓と共演したことがある。その父が一番愛した音楽はデキシールランドからスイングの時代のジャズだった。僕はそれを母のお腹の中にいた頃から聞かされていたので、生まれ落ちた時にはもう既にスイングする音楽が一番の子守唄だったんだと思う。親父は1934年生まれなので、終戦は11歳の時。祖父母の家が進駐軍に接収され、米

軍のバンドが毎晩デキシールランドのジャズを演奏していたと父親から聞いたことがあるが、そんなアメリカの本物のジャズを毎晩聞いていた父は、大阪に生まれた子が大阪弁を普通に話せるようになるように、そのデキシールランドという言葉の、おそらく「訛り」まで体で覚えてしまったんだと思う。そして一番大切な、本物のジャズ屋たちが演奏するときに感じている「最高の喜び」も。

ついこの間までは敵国だったはずのアメリカの音楽なのに、その音楽が世界を救った。日本だけではなく、ドイツ、フランス、イタリア、イギリスをはじめ、ヨーロッパの多くの国でいまだにジャズの土壌が根強く残っている。特に戦後の時代、体でジャズを覚えたミュージシャン達はジャズの一番大切な部分をまるで自国語のように表現できた。その代表が、僕が最も尊敬する日本人のピアニスト、作曲家の秋吉敏子さん。今のようにデジタルで簡単に音楽のコピーや分析ができなかったお陰で、あの時代に育ったジャズミュージシャンは国を問わず、みんなあの言語を話せるミュージシャンだった。特にあの時代の曲がとてもシンプルだっただけに、その一番大切な「スイング」と「ブルース」がなければ何も感じない音楽になってしまう。それは演奏技術で表現できるものではなく、心に沁みる切なさ、体がジツとしていられなくなるリズムを紡ぐことから感じる「生きる喜び」そのもの。それは無条件に僕らの心を幸せにしてくれる。

ジャズは今、ヒップホップを始め、現代の全てのポピュラーな音楽のベースになっている。ただ「ジャズ」と言うならば、「ブルース」と「スイング」は外せない。それが世界を一つにしたとても大切な言語だから。音楽が進化して表面的にどんなに複雑になっても、その「喜び」があれば国境を越え、肌の色やジェンダーを超えて人と人々を繋いでくれるから。だから今、僕はもう一度ジャズと向き合う。

essay



小曽根真(おそね・まこと)
ジャズ・ピアニスト

ジャズ、クラシックの垣根を超えた独自のアプローチで世界的に活躍するピアニスト、作曲家。パークリー音楽大学卒業後、ゲイリー・パートン、チック・コリア、ブランフォード・マルサリスなど、名だたるアーティストと共演し、ジャズシーンにおける確固たる地位を築く。その後、クラシックの分野でも、ニューヨークフィル、ベルリン放響など、世界の名門オーケストラと共演。近年は、若手とタッグを組んだピアノトリオ「TRINiTiTY」と国内外で活動、世界の最前線で躍進を続けている。ニューヨーク在住。

公演情報

小曽根真プレミアム・ソロ
～The New York Spirit～
2026年10月8日(木) 19:00開演 指定席
*詳細はP6をご覧ください

